



かつて出口王仁三郎聖師が「靈界物語」を口述したという旧松雲閣「離れの間」に立つ一瀬さん(並松町で)

並松町の綾部大橋南側で、建物は大正十年、東京に行われる由良川堤防の改修工事に先立ち、六十年近く営業してきた旅館「現長」(一瀬嘉夫さん経営)が近く全面改築する。現長の建物は、かつて大本の出口王

それによると、松雲閣は大正十四年に王仁三郎氏が買い取り、昭和二十一年に再び中野氏が買い戻している。その二年後に、一瀬さんの父で前主人の嘉重さん(故人)が中野氏から購入した。

王仁三郎聖師が使った「松雲閣」

(旅館 現長)

昭和十二年に現長を開店した

72年前「靈界物語」を口述

由良川改修で近く全面改築

「離れの間」は愛善荘に移転へ

仁三郎聖師が靈界の消息を意味する「靈界物語」を口述した場所(当時は「松雲閣」と呼ばれた)だった。改築に合わせ、聖師が書斎のように使った離れの間が上野町の大本・愛善荘の敷地内へ移築されることになった。

「松雲閣(祥雲閣)と靈界物語」に詳述されており、その中には現長の主人の一瀬さん(65)が語った内容も記述されている。

嘉重さんは、建物を買う前から賃貸で同所に住み、旅館を営んでいた。当時は家賃が二十円だったそう

が起った大正十年に、王仁三郎氏が開祖の霊のお告げを受け、松雲閣で靈界物語の口述を始めたという。

王仁三郎氏は同年十月十八日、本宮山にあった神殿が取り壊されるなどの事態に至ったことから、大本の地を離れ新築されたばかり

の廊下も畳だったのを板に造り変えてある。大本の歴史に詳しい大本・愛善荘の徳重善国さん(93)「上野町

松雲閣の移転は昨年暮れごろ、大本信徒連合会(高木平齋代表)と現長の間で話がまとまった。今月十四日に同連合会の関係者らによって現長で神事が営まれたあと、家財道具などが搬出される。柱など現物を用いて愛善荘の駐車場付近に復元される予定で、新天地でその姿を残す。(高橋)

る部屋を除いた建物が旧松雲閣。今回、移築される「離れの間」は、現在八畳と六畳の二間だが、もとは八畳と四畳で少し狭かった。部屋の内部は昔のままだが、外側にある廊下は現長になっ

た時世に繁栄した。一瀬さんは「軍事工場的な好待遇を受け、物資が豊富で従業員も召集されずすんだそうです」と順境の往時を話す。